

妊娠24週未満のヘモグロビンA1cの値と 周産期の予後

Iwama *et al.* Associations between glycosylated hemoglobin level at less than 24 weeks of gestation and adverse pregnancy outcomes in Japan: The Japan Environment and Children's Study (JECS). *Diabetes Res Clin Pract.* 2020. doi:[10.1016/j.diabres.2020.108377](https://doi.org/10.1016/j.diabres.2020.108377).



【はじめに】

食事から摂取した糖質をエネルギーとして消費したり、余分なエネルギーを蓄え、必要な時に消費するサイクルのことを糖代謝といいます。妊娠中の糖代謝の異常は、妊娠期の母子に悪影響を及ぼすことが分かっています。糖代謝の異常の診断基準として、世界的には母体の血中HbA1C（ヘモグロビンエーワンシー）の濃度が推奨されていますが、HbA1C濃度と母子へのリスクには人種差があり、日本で詳しい研究は行われていません。そこで、日本における妊娠24週未満の母体HbA1c濃度と妊娠期の母子の健康状態との関連を検討しました。

【調査項目】

血中のHbA1Cが6.5%未満の77,526人の妊婦について、妊娠22週から子の出生後7日未満の周産期における有害な症状（妊娠高血圧症候群、胎盤剥離、早産）の有無や出生時体重との関連を調べました。



【結果】

症状	妊娠24週未満において、血中のHbA1C濃度が1%増加するごとの症状の起こりやすさ（数字が1より大きいほど症状が起こりやすいことを示します）
妊娠高血圧症候群	1.77
胎盤剥離	1.78
早産	1.30
超早産	1.49
低出生体重児(<2,500g)	1.95
巨大児(≥4,000g)	1.23
在胎週数の平均より小さく出生	1.15
在胎週数の平均より大きく出生	1.29

血中のHbA1Cが上昇するほど、周産期における有害な症状が起こりやすいという結果が得られました。

【この調査でわかったこと】

日本人の妊婦において、血中のHbA1Cが一般的に妊娠高血圧症候群の基準とされる6.5%より低い値であっても、値が高いほど周産期における有害な症状が起こりやすいことが分かりました。この研究から、妊娠24週未満のHbA1Cの値が周産期の管理に有用となる可能性が見出されました。